

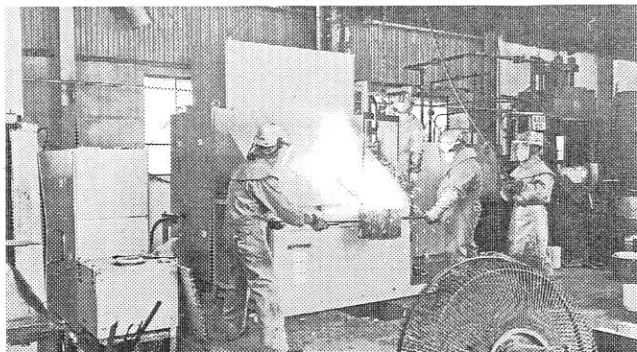
令和元年（2019年）8月15日（木曜日）

三芳合金工業

研究開発を強化

溶解炉2基更新で効率向上

銅合金の押出・鋳鍛 芳合金工業（本社・埼玉製品メーカーである三玉県三芳町、社長・萩野源次郎氏）は



導入した高周波誘導炉

溶解炉を2基更新した。高効率な溶解炉を導入することで研究開発を強化するとともに、大学・研究機関からの受注対応を強める。導入したのは北芝電機製の高周波誘導炉で、先月から稼働。投資金額は約3千万円となっている。

同社では航空

宇宙や次世代エネルギーの核融合など先端分

三芳合金工業

知財戦略を強化

銅合金でロシアの特許取得

三芳合金工業は知財戦略を強化している。フランスで建設が進む国際熱核融合実験炉（ITER）向けの銅・クロム・ジルコン合金管の製法などでロシアの特許を取得した。

ITERは日本・米

野に製品を多く供給しており、研究開発の強化に注力している。さらに大学や研究機関などからの実験的な受注に積極対応し、最新のニーズを吸収するほか技術力を向上させる方針。萩野社長は「難しい仕事に挑戦しながら競争力を高めていきたい」と話している。

キログラムのタイプで、同一電源で運用。小型だが高効率で、溶解時間は更新前から3割程度短縮できる。また耐火材の変更でさまざまな金属に対応できることも特長となっている。設備は研究開発や実験的な受注で銅合金を溶解するほか、金型に用いる鑄鉄を溶かすためにも使用。金型製造では、供給のさらなる安定化に繋がる。同社では更新に伴い工場内の溶解炉を一カ所に集約。本社工場の溶解工程全体で作業効率を高めている。

国・欧州などが共同で進めている次世代エネルギー技術の開発プロジェクト。

同国でも熱核融合のプロジェクト



特許証書を手にする萩野社長

ロシア向け市場が立ち上がる可能性を見込んで、特許を取得した。

プロジェクト。同社ではすでにITER向けに米国や韓国での特許を取得している。今後ロシアの研究機関にもITER関連の素材を納入するほか、中長期的に